

第2期みやぎ観光戦略プランの
平成24年度の実施状況について
(みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告)



平成25年5月

宮城県経済商工観光部

目 次

1	本報告書について	1
2	観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組	2
3	「第2期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について	3
4	各数値目標の推移	4
5	平成24年度事業の実施状況	
	(1) みやぎの魅力向上プロジェクト	5
	(2) 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト	9
	(3) インバウンド強化プロジェクト	11
	(4) 関東以西からの誘客強化プロジェクト	13
	(5) アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト	15
	(6) 震災復旧・復興関連事業	17
6	基本計画の実施状況の検証	19

1 本報告書について

県は、みやぎ観光創造県民条例（平成23年宮城県条例第8号。以下「条例」という。）第12条第1項の規定により、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、条例第11条各号に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画を定めるものとしている。また、知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならないこととされている。

この報告書は、条例第12条第3項の規定により、毎年度議会に提出することとされている年次報告である。

参考：みやぎ観光創造県民条例（平成23年宮城県条例第8号）（抜粋）

（施策の基本方針）

第11条 県は、次掲げる基本方針に基づき、観光振興に関する施策を積極的に推進するものとする。

- (1) 魅力あふれる観光地づくり、おもてなしの心の向上等の観光王国みやぎの実現のための取組を、会議の設置等県民総参加による運動として進めること。
- (2) 恵まれた自然、歴史、文化、景観、食、温泉その他の観光資源の保全、創造及び活用の取組への支援及び促進を図り、国際競争力及び国内競争力の高い魅力ある観光地の形成を図ること。
- (3) 観光に関する施設の整備、道路の整備、交通機能の充実その他の観光に関する社会基盤の整備を促進すること。
- (4) 観光事業者への必要な情報提供等の支援、観光事業者相互の連携及び観光事業者と産業観光など地域産業との連携の促進等により観光産業の競争力を強化することで、観光事業者の育成及び経営基盤の強化を図ること。
- (5) 観光事業に従事する者等の知識及び能力の向上、観光ボランティア等の育成その他の観光振興に寄与する人材の育成に関する取組を促進すること。
- (6) 大学等が観光振興に寄与する人材の育成等のために実施する教育活動へ協力すること。
- (7) 外国人観光客の受入環境の整備、市町村、近隣の県等との広域的な連携による取組その他の多様な誘客活動により、東アジアをはじめ海外からの観光客を積極的に誘致し、国際観光の振興及び国際相互交流を促進すること。
- (8) 多様な媒体を活用した国内外への単独的かつ多岐にわたる観光情報の発信その他の情報発信の充実のために必要な施策を実施すること。
- (9) グリーンツーリズムの更なる推進、スポーツツーリズム、コンテンツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム等の新しい観光分野の開拓、会議、展示会、映画撮影等の誘致及び観光客の受入態勢の整備等の取組を充実すること。
- (10) 県民等が主体となって行う食、文化、音楽、芸術等に関するイベント等との連携を図るとともに、これらのイベント等に対する必要な支援を行うこと。
- (11) 高齢者、障がい者及び外国人をはじめすべての観光客が安全に、安心して、快適に観光を楽しむことができる態勢の整備を促進すること。
- (12) 観光地における生活環境の美化並びに良好な景観の保全及び形成を促進するために必要な支援を行うこと。
- (13) 県民総参加による観光振興に取り組む意識を高めるため、観光に関する広報活動、教育活動等を積極的に実施すること。

（基本計画）

第12条 知事は、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、前条に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めるものとする。

- 2 知事は、基本計画を定めるに当たっては、市町村、県民等の意見が反映されるよう必要な措置を講ずるとともに、宮城県産業振興審議会に諮問するものとする。
- 3 知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組

県では、平成23年度から平成25年度までを計画期間とする基本計画「第2期みやぎ観光戦略プラン」(平成23年3月策定)を定め、条例の基本方針を踏まえながら、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」のための5つの戦略プロジェクトに基づき、幅広く各種施策を実施している。また、併せて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害からの観光分野の復旧・復興関連事業の推進を図った。

平成24年度の実施状況報告においては、この5つの戦略プロジェクトごとの事業とともに、震災復興計画に基づき、「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」の取組を示すものとする。

【観光王国みやぎの実現に向けた5つの戦略プロジェクト】

みやぎの魅力向上プロジェクト

→ 国内外の魅力ある観光地の中から宮城を選んで、訪れて、宿泊していただけるよう、宮城の魅力の向上、魅力の発信を実施

広域観光充実・域内流動促進プロジェクト

→ 観光客の宮城県・東北の域内での流動化を促進し、広域観光を充実。また、宮城県のゲートウェイ機能を強化し、東北の広域観光ルートの整備を実現

インバウンド強化プロジェクト

→ 宮城県への外国人観光客が増加するよう、誘客プロモーション活動の強化、外国人観光客にとって宮城県が訪れやすくなるような態勢の整備等を実施

関東以西からの誘客強化プロジェクト

→ 関東以西から多くの観光客が宮城・東北を訪れていただけるよう、情報発信、誘客キャンペーンの実施等により認知度の向上を実現

アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト

→ 今後増加が見込まれるアクティブ・シニア、障害者の方などにとって訪れやすい観光地となるよう施設整備や観光を支援する人材の育成を実施

地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現

【多様な魅力を持つみやぎの観光の再生】

震災復旧・復興関連事業

→ 東日本大震災による観光自粛、風評被害の影響を払拭し、観光施設等の早期復旧、国内外からの観光客入込数の早期回復を実現

震災前の水準の回復を目指す

3 「第2期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について

「第2期みやぎ観光戦略プラン」では、観光客の入込数を増加させ、外国人観光客を含めた宿泊観光客を増やすことにより、観光による消費を増やすことを目標とし、平成25年における数値目標を設定した。

しかし、平成23年3月11日に本県を襲った東日本大震災により、本県は沿岸部を中心に極めて甚大な被害を受け、観光分野においても、多くの観光施設・事業者が壊滅的な被害を受けた。県は、未曾有の大災害から復興を成し遂げるために平成23年10月に策定した「宮城県震災復興計画」に基づき、被災者の方々の生活支援と被災地の復興に最優先に取り組み、県民生活を一日も早く回復させるため、重点的に復旧・復興事業に取り組むこととしている。

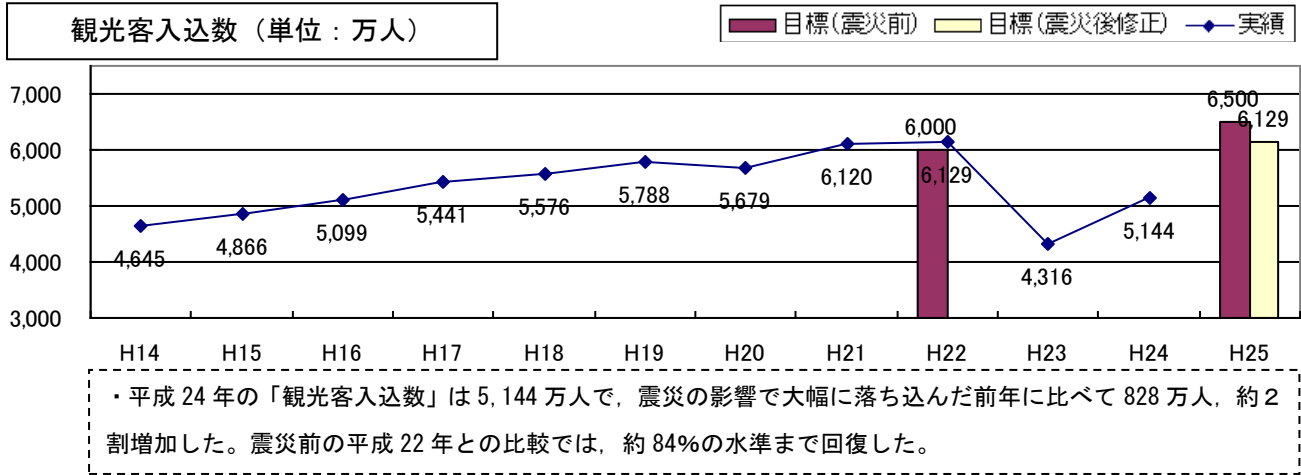
このような状況の変化を踏まえ、「第2期みやぎ観光戦略プラン」で設定した数値目標については、平成25年度までに震災前の水準に戻すことを目指して修正した。

	第1期プラン (平成19~22年度) 目標(平成22年時)	第2期プラン (平成23~25年度) 目標(平成25年時)	第2期プラン 目標の修正 (平成25年までに震災前 の水準に戻す)
① 観光客入込数	6,000万人	6,500万人	6,129万人
② 宿泊観光客数	1,000万人	900万人 (将来的には1,000万人 を目指す)	805万人
③ 外国人観光客宿泊者数	—	20万人	11万人
④ 観光消費額	6,000億円	6,300億円	5,387億円

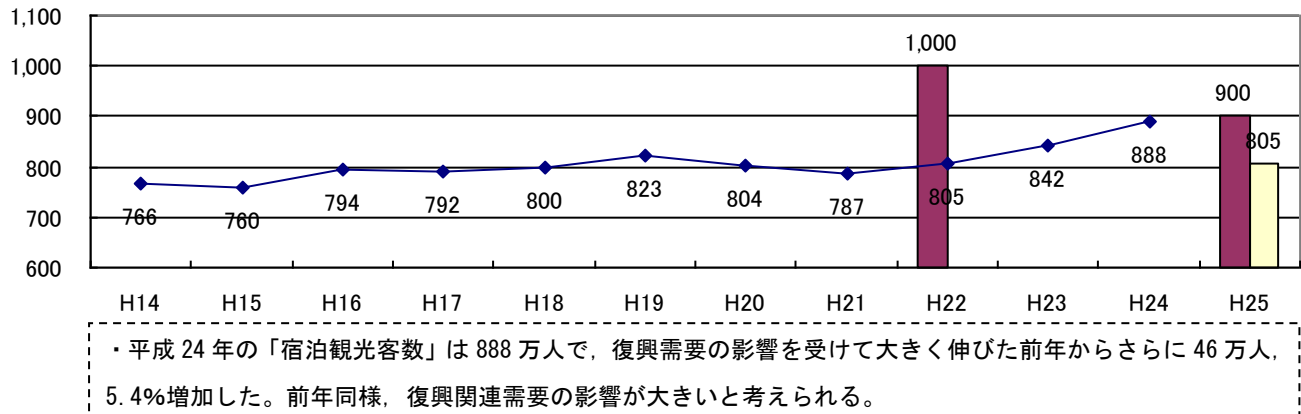


4 各数値目標の推移

観光客入込数（単位：万人）

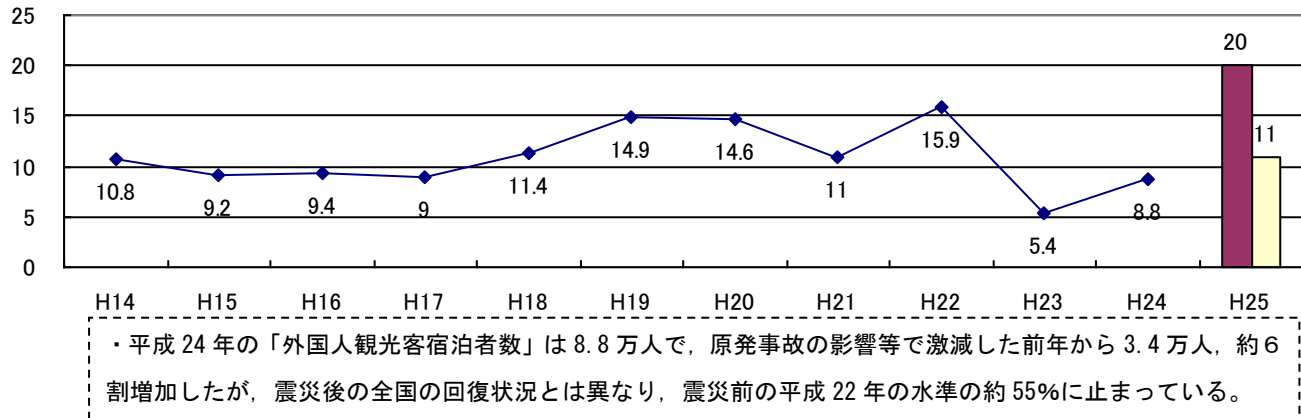


宿泊観光客数（単位：万人）



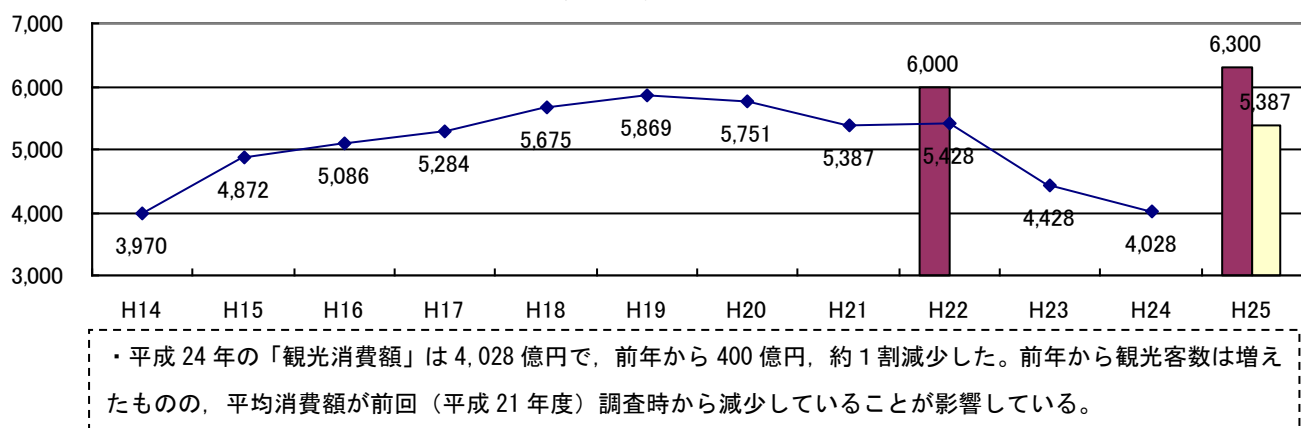
外国人観光客宿泊者数（単位：万人）

※H24の外国人観光客宿泊者数は、観光庁の平成24年第1～4四半期の調査結果（暫定値）を合計した。



観光消費額（単位：億円）

※H21年度観光動態調査報告書の平均消費単価を用いた場合、H24の観光消費額は4,544億円となる。



5 平成 24 年度事業の実施状況

観光は、第 1 次から第 3 次産業までの裾野が広い総合産業であり、経済波及効果や雇用効果の大きい分野であることから、宮城県の地域経済をけん引する大きな役割を担っていると同時に、「住んでよし」、「訪れてよし」の魅力ある地域づくりのために極めて重要であると位置づけて、「観光王国みやぎ」の実現を目指して戦略的に観光振興施策を推進している。

東日本大震災からの復旧・復興の 2 年目となった平成 24 年度は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響を受けて激減した観光客の回復に向けて、甚大な被害を受けた観光施設等の復旧・再生に向けた支援を継続するとともに、観光復興キャンペーン等を展開して国内外からの観光客の誘致を図るなど、観光の再生・復興に重点的に取り組んだ。

項目	事業	事業数 (再掲含)	事業費計(決算見込額、再掲分除く)
(1) みやぎの魅力向上プロジェクト		29 事業	
(2) 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト		14 事業	
(3) インバウンド強化プロジェクト		8 事業	
(4) 関東以西からの誘客強化プロジェクト		10 事業	
(5) アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト		5 事業	
(6) 震災復旧・復興関連事業		17 事業	
合計		83 事業	14,680,834 千円

(1) みやぎの魅力向上プロジェクト

国内外の魅力ある観光地の中から宮城を選んで、訪れて、宿泊していただけるよう、宮城の魅力の向上、魅力を発信するための取組を実施したもの。

平成 24 年度は、震災で落ち込んだ観光客数を震災前以上の水準まで回復させるため、平成 25 年春に予定している「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)」のプレキャンペーンとして、平成 24 年 4 月から 6 月にかけて「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン」を実施した。

また、観光資源や食材・物産、復興の状況などの宮城の観光情報を、県内各地での物産展や東京のアンテナショップのほか、テレビやインターネット、ソーシャルメディア等を活用して広く PRするとともに、震災体験を語り継ぐ「語り部」ガイドの育成や観光関係者研修会などの人材育成、登山道や観光案内板の表示修正等の基盤整備に取り組んだ。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成 24 年度実施状況
インターネットによる 観光情報の提供 (観光課)	1,723 (1,556)	インターネットを活用して宮城の観光の魅力を発信し、宮城県への誘客を図る。	・ホームページに観光情報データベースや観光地の画像を提供するシステムを運営し、本県の観光の魅力を全国に発信 「みやぎ伊達な観光マップ」アクセス数 23 万 8,220 件 「デジタルフォトライブラリー」ダウンロード件数 31,636 件
県外向け広報事業 (広報課)	24,128 (23,876)	県外向けの広報番組を放送し、宮城の観光資源や食材・物産、復興の状況等を PR する。	・BS テレビによる広報番組の制作・放送 放送局:BS-TBS 放送時間:毎週月曜 19:54~20:00 放送回数:年 51 回(うち 13 回は再放送) 平均視聴率:2.3%

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
宮城県メールマガジン 「メルマガ・みやぎ」 (広報課)	101 (93)	みやぎをよく知ってもらい、本県のイメージアップに寄与するため、毎週1回、メールマガジンを発行する。	・県内の旬な情報を紹介 イベント情報 県地方振興事務所からの復興情報 観光課からのDC情報 (平成25年3月末現在登録者数6,025名)
宮城県フェイスブック (広報課)	0 (0)	県内・県外の若年層を中心としたフェイスブック利用者に向けて、観光・物産の紹介等によりみやぎの魅力をPRする。	・県内イベント情報や動画を紹介 登録者 1,301人(平成25年3月現在) 閲覧者 延べ 770,398回(〃)
宮城県ホームページ (広報課)	2,248 (2,248)	本県の最新の県政ニュースや各種イベントについて、トピックスやニュースクリップ、報道発表資料等を随時更新し、情報発信する。	・平成24年度からCMSを導入し、弱視等障害者向けに情報提供を行う。(アクセシビリティ・ユーザビリティ) ・アクセス数 月平均30万(トップページ) ※CMS導入により平成24年11月から集計。
みやぎ夢(絆)大使 (広報課)	827 (690)	本県のイメージ向上を図るため、県外に居住する本県にゆかりのある方々に、みやぎの魅力をPRしていただくとともに、提言などをいただく。	・日常の活動の中で、本県の魅力・情報等のPRや県産品の良さの普及・宣伝などを行っていただいた。 ・年度中途の平成25年1月からみやぎ夢大使からみやぎ絆大使へ名称変更。
県産ブランド品確立支援事業 (食産業振興課)	9,525 (7,630)	宮城県の観光のPRポイントである農林水産物から多数の県産ブランド品が創出されるよう支援する。	・県産食材を使用し、消費者等を対象とした首都圏の有名ホテル等で「食材王国みやぎフェア」(6回(275日)), 料理人・バイヤー等を対象に生産現場へ招へいする「みやぎ食材出会いの旅」(8回)を実施 ・宮城県認証食品では新たに9事業者19商品を認証し差別化商品の創出を支援 ・意欲ある中小企業事業者と、製造する新・既存商品のモニタリング調査(10社10商品・1商品当たり70人モニター)を実施しマーケティングの重要性を意識付けすると同時に、モニターとなる消費者にその商品の評価・情報を発信していただくなど、ブランド確立に向けた取組を支援
地域イメージ確立推進事業 (食産業振興課)	9,534 (7,708)	宮城県の観光のPRポイントである食について「食材王国みやぎ」の看板の下に情報を集約し、県内外に向けて強力に情報を発信する。	・知事等のトップセールスによる「食材王国みやぎ」のPRを積極的に展開 ・県産食材の認知度向上のため、「食材王国みやぎウェブサイト運営事業」とともに、閲覧者側の使い勝手の悪くなっていたウェブサイト「食材王国みやぎ」の改修・リニューアルを行い、インターネットを通じた食関連情報を総合的に全国へ発信
首都圏県産品販売等拠点運営事業 (食産業振興課)	154,787 (154,341)	東京アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ(東京都豊島区東池袋)」において宮城県の物産や観光に関する情報を発信し、首都圏における販路の拡大支援による県内食品製造業の振興と観光PRの強化による本県への観光客の増加を図る。	・県産品の販売に加え、「宮城ふるさとプラザ」活動強化5か年プランに基づき、アンテナ機能の一層の発揮に向け取り組んだ。 年間売上額: 456,130千円 年間買上客数: 256,241人 ・施設内に設ける観光情報コーナーで情報を発信するとともに、ショーウィンドウに大型モニター・外部スピーカーを設置し、宮城の物産や観光に関する情報を発信

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
いしのまき地域交流拡大支援事業 (東部地方振興事務所)	0 (0)	いしのまき地域PRサポーターを募り、サポーターが実施する情報発信に対して、情報提供などの支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> PRサポーターの新規登録者数14人(登録者総数48人(うち女性18人)) 情報提供回数：計11回 (期間別) 平成24年4月～6月：2回 7月～9月：3回 10月～12月：4回 平成25年1月～3月：2回
首都圏キャラバン (東部地方振興事務所)	269 (296)	首都圏において震災復興支援への感謝を示すとともに4月から開催される仙台・宮城DCのPRイベントを開催	<ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成25年3月11日(月)～17(日) 場所：東京駅他 物販3店舗総売上約1,250千円
仙台における復興の市開催 (東部地方振興事務所)	333 (333)	大消費地である仙台市内において管内の特産品のPR及び物販 【催事名】 ①うまいもの市 ②へそまつり	<ul style="list-style-type: none"> うまいもの市 開催日：平成24年10月22日(月)～23日(火) 場所：勾当台公園・市民広場、出店者10者、総売上899千円 来場者延べ4,500人 へそまつり 開催日：平成24年9月19日(水)～20(木) 場所：勾当台公園・市民広場 出店者14者、総売上751千円 来場者数延べ11,500人
おらほの復興市 (東部地方振興事務所)	14 (14)	管内で開催されるイベントで観光PRコーナーの設置及び被災地の写真展示を行い地域の観光情報を発信するもの。	<ul style="list-style-type: none"> 開催日：平成24年11月11日(日) 場所：サンファンパーク 来場者数約2,000人 民間団体主催、実行委員として参画し、観光PRを実施
旨いもの逸品支援事業 (東部地方振興事務所)	492 (492)	管内の観光資源の開発や評価向上のためのPRイベントおよびPRツールの作成 ①復興いしのまき井へのPR支援 ②復興弁当開発支援 ③食材パンフ作成 ④第3回いしのまきスイーツコンテスト	<ul style="list-style-type: none"> 復興いしのまき井へのPR支援 「復興いしのまき井」PRポスターを作成・配布した。作成部数100部、販売数約4,000食(推計) 復興弁当開発支援 商品名：みやぎ石巻大漁宝船弁当開発支援、試食会の開催(NRE(株式会社日本レストランエンタプライズ)への協力) 販売期間(含予定)：平成25年3月1日(金)～6月30日(日) 食材パンフ作成 「頑張る石巻地域!の逸品」パンフ作成(作成部数10,000部) いしのまきスイーツフェア開催(第3回スイーツコンテスト出品作他出展) 開催日：平成24年11月2日(金)～4日(日) 場所：イオンモール石巻店、4店舗参加、総売上約640千円
仙台・宮城観光キャンペーン推進事業 (観光課)	0 (0) ※県負担金は、H23年度予算で対応(60,000千円)	県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体等と協力して短期集中型の観光キャンペーンを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 翌年に控えたDCのプレキャンペーンとして、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを開催した。また、DCに向けては、全国販売促進会議、旅行商品造成キャラバン、販売促進キャラバンなどを実施するとともに、市町村や民間団体と一体となって、観光資源を磨き上げ、旅行商品への提案(提案数1,124件)を行うなど、事前の準備活動を行った。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
みやぎの観光イメージ アップ推進事業 (観光課)	1,219 (1,087)	高まりつつある宮城の知名度を生かしながら、更なるイメージアップを図り、国内からの観光客等の誘致を促進する。	・北海道からの教育旅行の誘致のため、学校の先生と旅行会社を対象とした説明会を、仙台市、宮城県観光連盟、仙台観光コンベンション協会とともに開催した。 (札幌、函館 2回)
フィルムコミッション 推進事業 (観光課)	2,385 (2,385)	テレビ映像等によるシティセールスを行い、宮城県の知名度を向上させ、もって宮城県への観光客の誘客を図る。	・せんだい・宮城フィルムコミッションへ補助を行い、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組を支援 (支援件数 122件 撮影実績 25件)
観光に関する調査 (観光課)	6,700 (6,279)	宮城県を訪れる観光客の人数、目的等を調査・分析し、その結果を踏まえて、宮城県への誘客を戦略的に実施する。	・県観光統計概要調査による観光客入込等の把握と観光動態調査(3年に1回)による消費動向等の調査・分析 ・全国共通基準に基づく入込調査等
観光立県みやぎ戦略推 進事業 (観光課)	540 (365)	観光地づくりへの観光関係団体、観光関連事業者だけでなくその他の産業の従事者や県民に参加を促進するための取組を実施する。	・みやぎ観光創造県民条例に基づき設置する、有識者、観光関連事業者、関係団体、ボランティア等の県民による県民会議を開催し(2回)、「観光王国みやぎ」実現のための施策等についての意見聴取を行った。第2回目においては、25年度中の策定を予定している第3期観光戦略プランに向けての意見を聴取した。
みやぎエコ・ツーリズム 推進事業 (観光課)	9,900 (6,918)	エコの視点を取り入れた観光施策を実施し、観光地の環境保全を図りながら、エコに関する県民意識の向上を促す。	・エコの視点を取り入れたエコツーリズムの確立に向け、モニターツアーを実施した。(5社) ・県内におけるエコツーリズムの情報共有と、エコツーリズムに関する意識醸成のため、みやぎエコフォーラムを開催した(1回)。
観光ガイド「語り部」 育成研修会 (東部地方振興事務所)	82 (82)	防災教育や震災体験を語り継ぐ学びのガイドの育成研修会を開催	・開催日:平成24年7月18日(水) 場所:石巻合庁他 参加者:23名
いしのまき地域観光振 興セミナー (東部地方振興事務所)	515 (515)	管内の観光業関係者を対象に「観光で復興」をテーマとしてセミナーを開催	・開催日:平成24年7月18日(水) 場所:石巻専修大学 参加者:140名 その他:セミナー終了後に参加者の交流会開催
金華山島森林復元事 業、栗駒山自然景観保 全修復事業、蒲生干潟 自然再生推進事業、伊 豆沼・内沼自然再生推 進事業 (自然保護課)	32,356 (25,977)	宮城県の魅力である自然環境の保護及び再生を図る。	・金華山島の森林生態系を保護するための防鹿柵の設置や、伊豆沼・内沼の自然再生のための調査、試験施工、モニタリング等を実施 (蒲生干潟自然再生推進事業は東日本大震災の影響により休止)
グリーン・ツーリズム 促進支援事業 (農村振興課)	5,332 (3,524)	都市住民と農山漁村の住民が、交流活動を通じて互いに支え合い、関係者全員が前向きに楽しく活動を継続できるグリーン・ツーリズムを目指し、推進環境の整備、人材育成、情報発信、地域活動の活性化に係る支援を行う。	・グリーン・ツーリズム推進活動事業 相談窓口設置、普及啓発、人材育成、起業支援、観光業者等との連携調整 ・グリーン・ツーリズムアドバイザー派遣事業 知識や経験が豊富なアドバイザーの派遣による現地指導等(23件)
景観の保全に関する取 組 (都市計画課)	1,497 (610)	自然や歴史的な街並みなど宮城県内の個性ある資源を積極的に生かしながら、良好な景観の形成を図る。	・景観シンポジウムを開催し、景観形成に関する普及啓発を行った。 ・景観アドバイザーの派遣等により、市町村の景観形成への取組を支援した。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
みやぎ観光戦略受入基盤整備事業 (観光課)	48,000 (45,497)	高齢者、子どもづれの人、外国人等、あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵王秋山沢線の登山道整備を行った。 ・蔵王エコーラインと接続する澄川の観光道路の補修を行った。 ・面白山・刈田岳・硯石線登山道整備のための測量設計を行った。 ・広域観光案内板の表示修正（震災で休廃止している施設の注意表示）を行った。また、ミニ観光案内所の看板デザインを H25 デスティネーションキャンペーンのコンセプトデザインに一新した。
道路整備事業 (道路課)	11,090,000 (10,948,040)	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸縦貫自動車道、常盤自動車道、みやぎ県北高速幹線道路等の道路網の整備
観光地案内板等の設置 (道路課)	-	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災により、看板設置計画について一時中止。 今後、新たなまちづくりとの整合を図りながら、看板設置計画を策定していく。
石巻地域観光推進会議 (東部地方振興事務所)	125 (125)	管内市町・観光団体（構成員 18 名）を対象に観光に関する情報交換及び研修会を開催（計 3 回開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年 7 月 3 日(火)石巻合同庁舎（講演講師：県観光課職員） ・平成 24 年 10 月 3 日(水)サンファン館（講演講師：民間講師） ・平成 24 年 12 月 21 日(金)石巻合同庁舎（講演講師：南三陸町職員）

(2) 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト

観光客の宮城県・東北の域内での流動化を促進し、広域観光の充実を図るとともに、宮城県のゲートウェイ機能を強化し、東北の広域観光ルートの整備等の取組を実施したものの。

平成 24 年度は、広域的な観光の推進のため、市町村及び近隣の県と連携した観光 PR イベントの実施や広域観光ルート案の検討、広域周遊ガイドマップの作成のほか、インターネット等での情報発信などに取り組んだ。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
インターネットによる観光情報の提供（再掲） (観光課)	1,723 (1,556)	インターネットを活用して宮城の観光の魅力を発信し、宮城県への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに観光情報データベースや観光地の画像を提供するシステムを運営し、本県の観光の魅力を全国に発信「みやぎ伊達な観光マップ」アクセス数 23 万 8,220 件 「デジタルフォトライブラリー」ダウンロード件数 31,636 件
仙台・宮城観光キャンペーン推進事業（再掲） (観光課)	0 (0) ※県負担金は、H23 年度予算で対応 (60,000 千円)	県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体等と協力して短期集中型の観光キャンペーンを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年に控えた DC のプレキャンペーンとして、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを開催した。また、DC に向けては、全国販売促進会議、旅行商品造成キャラバン、販売促進キャラバンなどを実施するとともに、市町村や民間団体と一体となって、観光資源を磨き上げ、旅行商品への提案(提案数 1,124 件)を行うなど、事前の準備活動を行った。
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化 (観光課、東北観光推進機構)	15,000 (15,000) ※東北観光推進機構負担金	東北地方への誘客を図るために、東北観光推進機構等と連携した取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・東北の認知度をアップさせ、国内外からの観光客の誘致を推進するため、国内におけるフォーラムの開催や、国外における各種プロモーションの実施などを、一体となって実施した。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
みやぎ蔵王三十六景推進事業 (大河原地方振興事務所, 管内市町村 他)	687 (1,338)	食と観光のブランド化を目指し、みやぎ蔵王三十六景の認知度を向上させて仙南地域の地域振興を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 仙台駅でキャンペーン開催 (3回) ・「地域の逸品」の推奨 (新規1商品) ・小十郎の郷 (白石市) で仙南旨いもの市開催 (出展数16者) ・図画コンクール開催 (応募数134点)
仙山交流連携促進事業 (仙台地方振興事務所, 山形県 (村山総合支庁))	450 (445)	仙台地域と山形県村山地域との圏域を越えた広域的な連携促進を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・仙山交流味祭などにおける両圏域の相互の情報発信 ・両圏域28市町村等で構成する「仙台・やまがた交流連携促進会議」が山形県村山支庁主催で開催され、東日本大震災における相互支援をはじめとする地域間連携の効果について話し会を行った。 ・パンフレット等の相互配架
仙台地域観光推進事業 (仙台地方振興事務所)	992 (1,151)	仙台圏域における広域観光を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興を支援するため、大和町「まほろば夏まつり」において「大和復興市」を開催し、観光PRコーナーにおいて、管内の観光情報を発信 ・黒川地域3町1村 (大和町, 大郷町, 富谷町, 大衡村) において、「くろかわのグルメと観光ガイドマップ」を作成 ・塩竈・松島地域3市3町 (塩竈市, 多賀城市, 東松島市, 松島町, セツ浜町, 利府町) において、「松島湾岸周遊ガイドマップ」を作成 ・塩竈・松島地域3市3町において、観光担当者のための広域観光情報を整理した手持ち資料である「松島湾岸ガイドブック」を更新
最上・雄勝・大崎連携交流事業 (北部地方振興事務所, 山形県 (最上総合支庁), 秋田県 (雄勝地域振興局))	460 (351)	大崎地域と山形県最上地域・秋田県雄勝地域との圏域を越えた広域的な連携促進を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報の発信 (ブログの運営, 観光エージェント訪問) 及び合同観光PRイベント「東北のへそ観光まつり」を実施。
岩手・宮城県際広域観光推進事業 (北部地方振興事務所栗原地域事務所, 東部地方振興事務所登米地域事務所, 気仙沼地方振興事務所, 岩手県 (県南広域振興局), 沿岸広域振興局)	0 (0)	岩手県と宮城県との県際地域における広域観光の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・県際広域観光パンフレット「南いわて・北みやぎ観光ガイドブック～復興応援版～」の発行 ・岩手・宮城県際広域観光推進研究会公式サイト「南いわて・北みやぎ観光サイト案内所」におけるイベントカレンダーの掲載 ・県際地域の教育旅行, 回遊ルート原案作成 ・観光案内所におけるパンフレット等の相互配架 ・観光ボランティアガイド等を対象とした観光ボランティア研修会の開催 ・外国人観光客の受入促進に向けた研修会の開催 ・東日本大震災後の観光資源及び宿泊施設の営業状況に関する調査実施
県際交流事業 (大河原地方振興事務所, 山形県 (置賜総合支庁), 福島県 (相双地方振興局, 県北地方振興局))	0 (0)	仙南地域に隣接する福島県及び山形県と連携した観光施策を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット等の相互配置
栗駒山麓広域連携事業 (栗原地域事務所, 岩手県 (県南広域振興局), 秋田県 (雄勝地域振興局))	560 (273)	栗駒山麓3県 (岩手県一関地域, 秋田県雄勝地域, 宮城県栗原地域) の関係者が連携し, 温泉を主要テーマとした観光PR活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・栗駒山麓湯めぐり回廊パンフレットの作成 (3県連携) ・紅葉時期の渋滞緩和対策PR (長者原SA)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
登米地域の「食」による 観光復興支援事業 (東部地方振興事務所 登米地域事務所)	1,676 (1,875)	登米地域の観光の「安全」「安心」を県内外に発信し、観光自粛や風評被害の影響を早期に払拭するとともに、平成25年4月から実施される仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに向けて、登米地域の「食」を通じた取組による交流人口の拡大や観光による地域経済の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産食材を活用した新商品開発(登き米きバーガー) ・観光復興情報PR支援 ・そぞろ歩き登米マップ改訂増刷 ・登米の体験スポット集改訂増刷 ・油麩井はっと提供店マップ作成 ・観光施設関係者や飲食店等を対象とした研修会の開催
観光立県みやぎ戦略推進事業(再掲) (観光課)	540	観光地づくりへの観光関係団体、観光関連事業者だけでなくその他の産業の従事者や県民に参加を促進するための取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎ観光創造県民条例に基づき設置する、有識者、観光関連事業者、関係団体、ボランティア等の県民による県民会議を開催し(2回)、「観光王国みやぎ」実現のための施策等についての意見聴取を行った。第2回目においては、25年度中の策定を予定している第3期観光戦略プランに向けての意見を聴取した。
道路整備事業(再掲) (道路課)	11,090,000 (10,948,040)	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸縦貫自動車道、常盤自動車道、みやぎ県北高速幹線道路等の道路網の整備
観光地案内板等の設置 (再掲) (道路課)	-	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災により、看板設置計画について一時中止。 今後、新たなまちづくりとの整合を図りながら、看板設置計画を策定していく。

(3) インバウンド強化プロジェクト

宮城県への外国人観光客が増加するよう、誘客プロモーション活動の強化、外国人観光客にとって宮城県が訪れやすくなるような態勢の整備等の取組を実施したものの。

平成24年度は、震災の影響で大幅に減少した外国人観光客数の回復を図るため、外国人対応の観光パンフレットやマルチビザの紹介チラシ等を作成するとともに、海外旅行博への出展や海外のマスコミや旅行会社等の取材や視察の招聘を通じて、海外に対する正確な情報の発信を行った。

また、MICE(国際会議等)についてはコンベンション開催経費の一部を支援し誘致促進を図った。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
インターネットによる 観光情報の提供(再掲) (観光課)	1,723	インターネットを活用して宮城の観光の魅力を発信し、宮城県への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに観光情報データベースや観光地の画像を提供するシステムを運営し、本県の観光の魅力を全国に発信 「みやぎ伊達な観光マップ」アクセス数 23万8,220件 「デジタルフォトライブラリー」ダウンロード件数 31,636件
観光プロモーション・ ツールによる宮城県の PR (観光課)	-	リーフレット等の観光プロモーション・ツールを作成し、外国人観光客の誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人対応のパンフレットを新たに作成したほか、マルチビザを紹介するチラシの作成や、DC関連のパンフレットなどを作成し、海外でのPRに努めた。(外国人観光客誘致促進事業と一体で実施)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
外国人観光客誘致促進事業 (観光課)	7,500 (7,156)	海外からの観光客誘致促進のために各種プロモーション事業を実施する。	・正確な観光情報の発信のため、海外旅行博(KOTFA, ITF, ITE)への出展やプロモーション活動を行った。また、マスコミや旅行会社等を本県に招請し、取材や視察を通じた情報発信を行った。
外国人観光客受入体制整備事業 (観光課)	300 (300)	来県する外国人が気軽に快適な旅行をすることができるよう、受入体制の基盤を整備する。	・宮城県観光誘致協議会とともに、本県への外国人観光客誘致のための研修会を開催した。(1回)
東北観光推進機構等と連携したインバウンドの取組強化 (観光課)	15,000 (15,000) ※東北観光推進機構負担金	台湾、韓国、香港、中国などからの誘客を図るために、東北観光推進機構等の連携による取組を行う。	・海外での旅行博覧会への出展や、プロモーション活動、本県へ旅行会社やマスコミ等を招く招請事業などを、東北観光推進機構と一体となって実施した。 また、DC向けのインバウンド用パンフレットを共同で制作した。(外国人観光客誘致促進事業と一体で実施)
コンベンション都市推進事業 (観光課)	2,800 (2,800)	本県に国際会議等のコンベンションの誘致事業を実施する仙台観光コンベンション協会に対する支援を行う。	・コンベンション開催経費の一部を支援し開催誘致を促進したもの。 (大型会議：17件、国際会議：16件 合計：33件を支援)
観光立県みやぎ戦略推進事業(再掲) (観光課)	540 (365)	観光地づくりへの観光関係団体、観光関連事業者だけでなくその他の産業の従事者や県民に参加を促進するための取組を実施する。	・みやぎ観光創造県民条例に基づき設置する、有識者、観光関連事業者、関係団体、ボランティア等の県民による県民会議を開催し(2回)、「観光王国みやぎ」実現のための施策等についての意見聴取を行った。第2回目においては、25年度中の策定を予定している第3期観光戦略プランに向けての意見を聴取した。
みやぎ観光戦略受入基盤整備事業(再掲) (観光課)	48,000 (45,497)	高齢者、子どもづれの人、外国人等、あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備する。	・蔵王秋山沢線の登山道整備を行った。 ・蔵王エコーラインと接続する澄川の観光道路の補修を行った。 ・面白山・刈田岳・硯石線登山道整備のための測量設計を行った。 ・広域観光案内板の表示修正(震災で休廃止している施設の注意表示)を行った。また、ミニ観光案内所の看板デザインをH25 デスティネーションキャンペーンのコンセプトデザインに一新した。

(4) 関東以西からの誘客強化プロジェクト

関東以西から多くの観光客が宮城・東北を訪れていただけるよう、情報発信、誘客キャンペーンの実施等により認知度を高める取組を実施したものの。

平成 24 年度は、関係機関と連携した中部、関西等でのセミナーや観光キャラバンの実施、臨時観光案内所の設置のほか、「みやぎ観光復興支援センター」で関東以西に向けたボランティアツアーの情報提供・マッチングを行うなど、宮城の魅力の情報発信と誘客強化に取り組んだ。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成 24 年度実施状況
インターネットによる 観光情報の提供(再掲) (観光課)	1,723 (1,556)	インターネットを活用して宮城の観光の魅力を発信し、宮城県への誘客を図る。	・ホームページに観光情報データベースや観光地の画像を提供するシステムを運営し、本県の観光の魅力を全国に発信 「みやぎ伊達な観光マップ」アクセス数 23 万 8,220 件 「デジタルフォトライブラリー」ダウンロード件数 31,636 件
県外向け広報事業(再掲) (観光課)	24,128 (23,876)	県外向けの広報番組を放送し、宮城の観光資源や食材・物産、復興の状況等をPRする。	・BS テレビによる広報番組の制作・放送 放送局：BS-TBS 放送時間：毎週月曜 19:54～20:00 放送回数：年 51 回(うち 13 回は再放送) 平均視聴率：2.3%
仙台・宮城観光キャンペーン推進事業(再掲) (観光課)	0 (0) ※県負担金は、H23 年度予算で対応 (60,000 千円)	県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体等と協力して短期集中型の観光キャンペーンを実施する。	・翌年に控えた DC のプレキャンペーンとして、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを開催した。また、DC に向けては、全国販売促進会議、旅行商品造成キャラバン、販売促進キャラバンなどを実施するとともに、市町村や民間団体と一体となって、観光資源を磨き上げ、旅行商品への提案(提案数 1,124 件)を行うなど、事前の準備活動を行った。
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化(再掲) (観光課)	15,000 (15,000) ※東北観光推進機構負担金	東北地方への誘客を図るために、東北観光推進機構等と連携した取組を実施する。	・東北の認知度をアップさせ、国内外からの観光客の誘致を推進するため、国内におけるフォーラムの開催や、国外における各種プロモーションの実施などを、一体となって実施した。
みやぎの観光イメージアップ推進事業(再掲) (観光課)	1,219 (1,087)	高まりつつある宮城の知名度を生かしながら、更なるイメージアップを図り、国内からの観光客等の誘致を促進する。	・北海道からの教育旅行の誘致のため、学校の先生と旅行会社を対象とした説明会を、仙台市、宮城県観光連盟、仙台観光コンベンション協会とともに開催した。 (札幌, 函館 2 回)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
中部以西からの誘客対策 (観光課)	0 (0)	中部以西において、本県の観光の魅力を発信し、本県への誘客につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・東北観光推進機構とともに、中部、関西等でのセミナーを開催したほか、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会とともに、大阪・名古屋キャラバンの実施や、旅行会社説明会を実施したほか、仙台商工会議所とともに、福岡での観光セミナーを実施した。 また、航空会社と連携して大阪・名古屋・福岡に臨時観光案内所を設置して観光PRを行い、本県への誘客を図った。 ・大阪事務所では、下記の取組により宮城のPRを行った。 観光情報の収集・発信：旅行会社（12社）を訪問しての観光客送客依頼等 宮城県観光物産展の開催支援、宮城県の臨時観光案内所の設置、観光コーナーの設置（延べ34回） 東北6県観光展の開催 仙台・宮城DCでの観光キャラバンの実施支援
観光立県みやぎ戦略推進事業（再掲） (観光課)	540 (365)	観光地づくりへの観光関係団体、観光関連事業者だけでなくその他の産業の従事者や県民に参加を促進するための取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎ観光創造県民条例に基づき設置する、有識者、観光関連事業者、関係団体、ボランティア等の県民による県民会議を開催し（2回）、「観光王国みやぎ」実現のための施策等についての意見聴取を行った。第2回目においては、25年度中の策定を予定している第3期観光戦略プランに向けての意見を聴取した。
道路整備事業（再掲） (道路課)	11,090,000 (10,948,040)	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・三陸縦貫自動車道、常盤自動車道、みやぎ県北高速幹線道路等の道路網の整備
観光地案内板等の設置 (再掲) (道路課)	-	交通体系を整備し、観光地へのアクセスを容易なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災により、看板設置計画について一時中止。 今後、新たなまちづくりとの整合を図りながら、看板設置計画を策定していく。
みやぎのボランティア ツーリズム推進事業 (観光課)	56,000 (55,969)	観光の再生のため、市町村におけるボランティアツアー受入のための態勢整備、震災の経験を伝える教育旅行、研修旅行の受入のための態勢整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「みやぎ観光復興支援センター」設置の2ヶ年度目。旅行会社や学校、企業に対し、ボランティアツアーや学習プログラムに関わる情報を提供。今年度は整備の進んでいる「語り部」などとのマッチング実績が増加。 H24 マッチング実績 372 団体、13,062 人（うち、関東以西は 158 団体、4,587 人）

(5) アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト

今後増加が見込まれるアクティブ・シニア、障害者の方などにとって訪れやすい観光地となるよう施設整備や観光を支援する人材を育成する取組を実施したものの。

平成 24 年度は、平成 24 年 10 月に開催された「ねんりんピック宮城・仙台 2012」において、旅行会社には選手団向けのオプションツアーの提案を行ったほか、大会会場内に臨時観光案内所を設置して県内の多様な魅力ある観光地をPRした。

また、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンにおいて、多くの方々に本県を訪れていただけるよう、「大人の休日倶楽部」をはじめとして、アクティブ・シニアの方を対象とするプロモーションを行った。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成 2 4 年度実施状況
インターネットによる 観光情報の提供 (再掲) (観光課)	1,723 (1,556)	インターネットを活用して宮城の観光の魅力を発信し、宮城県への誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに観光情報データベースや観光地の画像を提供するシステムを運営し、本県の観光の魅力を全国に発信 「みやぎ伊達な観光マップ」アクセス数 23 万 8,220 件 「デジタルフォトライブラリー」ダウンロード件数 31,636 件
ねんりんピック宮城・ 仙台大会の開催 (ねんりんピック推進 室、観光課等)	0 (0)	平成 2 4 年秋に開催されるねんりんピック宮城・仙台大会を契機とする宮城県への観光に係る取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントにおいて、ねんりんピックのPRを行ったほか、大会期間中は会場内などに、臨時観光案内所を設置し、観光案内を行った。 ・旅行会社には選手団向けのオプションツアーを提案し、大会をきっかけとした県内観光の促進を図った。 ・選手団をおもてなしの心でお出迎えするため、選手団臨時団体列車で、市町村とともにちょっぴりプレゼントを実施するとともに、仙台駅ではおかみ会とともに、お出迎えを行った。
観光立県みやぎ戦略推 進事業 (再掲) (観光課)	540 (365)	観光地づくりへの観光関係団体、観光関連事業者だけでなくその他の産業の従事者や県民に参加を促進するための取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎ観光創造県民条例に基づき設置する、有識者、観光関連事業者、関係団体、ボランティア等の県民による県民会議を開催し (2 回)、「観光王国みやぎ」実現のための施策等についての意見聴取を行った。第 2 回目においては、25 年度中の策定を予定している第 3 期観光戦略プランに向けての意見を聴取した。
みやぎ観光戦略受入基 盤整備事業 (再掲) (観光課)	48,000 (45,497)	高齢者、子どもづれの人、外国人等、あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵王秋山沢線の登山道整備を行った。 ・蔵王エコラインと接続する澄川の観光道路の補修を行った。 ・面白山・刈田岳・硯石線登山道整備のための測量設計を行った。 ・広域観光案内板の表示修正 (震災で休廃止している施設の注意表示) を行った。 また、ミニ観光案内所の看板デザインを H25 デスティネーションキャンペーンのコンセプトデザインに一新した。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
仙台・宮城観光キャンペーン推進事業(再掲) (観光課)	0 (0) ※県負担金は、H23年度予算で対応(60,000千円)	県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体等と協力して短期集中型の観光キャンペーンを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・翌年に控えたDCのプレキャンペーンとして、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを開催した。また、DCに向けては、全国販売促進会議、旅行商品造成キャラバン、販売促進キャラバンなどを実施するとともに、市町村や民間団体と一体となって、観光資源を磨き上げ、旅行商品への提案(提案数1,124件)を行うなど、事前の準備活動を行った。 ・DCを契機として、多くの方々に本県を訪れていただけるよう、「大人の休日倶楽部」をはじめとして、アクティブ・シニアの方を対象とするプロモーションを行った。

(6) 震災復旧・復興関連事業

東日本大震災により、観光施設等に甚大な被害が発生し、観光自粛ムードの蔓延や風評被害などにより、観光客が大幅に減少した。

平成 24 年度は、国内外からの観光客の誘致を進めるため、平成 23 年度に引き続き、被災した観光施設の再建支援を継続するとともに、平成 24 年 4 月から 6 月にかけて実施した仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンのほか、首都圏及び東北域内でのキャラバン活動や「宮城観光復興支援センター」でのボランティアツアーの情報提供・マッチングを通じてみやぎの観光の「安全・安心」を強く国内外に発信し、観光自粛や風評被害の影響の早期払拭に努めた。

(単位：千円)

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成 24 年度実施状況
観光復興緊急対策事業 (観光課)	14,500 (12,875)	震災の発生に伴う旅行のキャンセルや風評、自粛等により県内の観光業界に多大な影響が出ていることから、正確な観光情報の提供を行い、観光客の誘致を進めるもの。	・旅行雑誌マップルや新聞等への広告掲載を行った。また、コンベンション協会と一体となって、県内へのコンベンションの誘致を行った。(一部は、復興調整事業：みやぎ観光プロモーション活性化事業に統合して実施)
みやぎ観光復興イメージアップ事業 (観光課)	7,500 (2,954)	震災の発生により、県内観光に大きな影響が生じていることから、JR 等と連携した首都圏等での PR 活動を行う。	・プロスポーツ 3 チームと連携した観光 PR を行うとともに、JR 主要駅での観光復興をアピールするイベントを開催した。(一部を復興調整費：みやぎ観光プロモーション強化事業に振り替えた)
観光復興イベント開催事業 (観光課)	4,500 (3,000)	震災の影響により国内観光を手控えている県外の観光客に対して、首都圏等で開催するイベントに対して、補助するもの。	・県外で開催される本県の観光の PR を目的とするイベントに対して、補助した(2 件)
みやぎ観光域内流動緊急対策事業 (観光課)	2,000 (0)	県内の域内流動の活性化を図るため、県内各地を周遊する旅行商品の企画や造成を支援するものである。	・復興調整費事業であるみやぎプロモーション活性化事業に統合して実施した。
みやぎのボランティアツーリズム推進事業(再掲) (観光課)	56,000 (55,969)	観光の再生のため、市町村におけるボランティアツアー受入のための態勢整備、震災の経験を伝える教育旅行、研修旅行の受入のための態勢整備を行う。	「みやぎ観光復興支援センター」設置の 2 ヶ年度目。旅行会社や学校、企業に対し、ボランティアツアーや学習プログラムに関わる情報を提供。今年度は整備の進んでいる「語り部」などとのマッチング実績が増加。 H24 マッチング実績 372 団体、13,062 人
観光施設再生支援事業 (観光課)	1,500,000 (239,165)	震災で被災した観光施設の再建を行う事業者が要する経費について補助金を交付するもの。	・主に旅館・ホテル等宿泊施設に対して交付決定 57 件
中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業 (新産業振興課等)	114,000,000 (10,046,351) ※観光課所管の H23 繰越分・H24 の確定額 (2,863,855)	震災により甚大な被害を受けた地域において、県の認定する中小企業等グループの復興事業計画について、国及び県が支援することにより、「産業活力の復活」、「被災地域の復興」、「コミュニティの再生」、「雇用の維持」等を図り、県内産業の復旧及び復興を促進する。	・震災により被災した中小企業等のグループの施設・設備の復旧・整備に係る整備資金を助成 (交付決定：114 グループ、2,278 社 1,362 億円 うち主に観光業を中心としたグループ 14 グループ 232 社)
自然公園施設災害復旧事業 (観光課)	70,000 (44,465)	震災により被害を受けた県内の観光施設の復旧と施設整備を推進する。	・仁王島の復旧工事は計画通り施行。管理道路復旧工事は、入札不調により施行着手が遅れ、渡月橋復旧工事は資材等の不足により進捗が遅れ、それぞれ繰越となっている。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
仙台・宮城観光キャンペーン推進事業(再掲) (観光課)	0 (0) ※県負担金は、H23年度予算で対応(60,000千円)	県内外の一般消費者及び旅行エージェントや報道関係者などに対し、本県の観光の情報や復興の状況を正確に伝えることにより観光客の誘致を図るため、関係自治体等と協力して短期集中型の観光キャンペーンを実施する。	・翌年に控えたDCのプレキャンペーンとして、仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーンを開催した。また、DCに向けては、全国販売促進会議、旅行商品造成キャラバン、販売促進キャラバンなどを実施するとともに、市町村や民間団体と一体となって、観光資源を磨き上げ、旅行商品への提案(提案数1,124件)を行うなど、事前の準備活動を行った。
海外交流基盤再構築事業 (国際経済・交流課)	0 (0)	震災により大幅に減少した外国人観光客の誘致を図るため、本県がこれまで築いてきた海外自治体等との交流基盤を活用し、海外政府要人の来県を働きかける。	・海外からの賓客等の受入 31件 ・復興PRのための職員派遣 3件
海外交流基盤強化事業 (国際経済・交流課)	4,046 (5,417)	中国吉林省、米デラウェア州、露ニジェゴロド州等外国政府等との関係を強化するため、訪問団の派遣や受入れを行う。併せて、訪問団への地元経済界の参加を促すことにより、本県のPR等を効果的に実施し、企業の販路開拓を下支えする。	・友好県省州等海外自治体への職員、訪問団の派遣 5回 ・友好県省州等海外自治体からの職員、訪問団の受入 3回
みやぎ観光復興誘客推進事業 (観光課)	6,000 (3,800)	本県への観光客の誘致の促進を図るため、旅行会社に対し、復興段階に合わせた旅行商品の造成及び催行や、事業の実施に要する経費を補助するとともに、復興ツーリズムの確立に向けた関係者の招請事業を行う。	・首都圏から本県への観光客の誘客を進めるため、仙台・宮城単独商品を造成する場合に、観光PR記事掲載に対する助成を行った(造成本数13本)
みやぎ観光復興再生モデル事業 (観光課)	0 (98,798) ※H23年度からの繰越事業	震災により大幅に減少している観光客の誘致を図るため、仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会や宮城県観光連盟と連携して、誘客のためのモデル事業を推進する。	・仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会と一体となって観光PRを実施した。また、市町村と一体となって、観光資源の再構築に取り組んだ。 仙台空港を活用した誘客活動に取り組んだ。(就航地での観光PR3地域) 震災後のパンフレットを制作するとともに、雑誌・新聞等への記事掲載などにより正確な観光情報の提供を行った。
気仙沼・南三陸震災復興キャンペーン！首都圏誘客キャラバン事業 (富県宮城推進室)	3,995 (3,763)	気仙沼・南三陸の復興をアピールし、観光客を誘致するため、宮城県が気仙沼、南三陸の観光関係者等と連携し、復興アピール、特産品の試食、物産展、南三陸の語り部による講演等を行う気仙沼・南三陸震災復興キャンペーンを首都圏で開催する。	・平成24年5月5日～6日の2日間、首都圏(銀座TSビル)にて、復興キャンペーンを実施した。(来場者7,800人)
みやぎ観光プロモーション活性化事業 (観光課)	23,548 (21,140)	県内の観光関係者と農商工関係者が連携して民間主体のキャラバン隊を派遣し、首都圏及び東北域内において、宮城及び岩手、福島観光の安全・安心と復興を直接的にPRすることにより観光客の誘致を図る。	・震災による風評等の影響を払拭するため、首都圏及び東北域内でのキャラバン活動を行うとともに、県内の観光客の流動性を高めるため、広報と一体となった旅行商品造成や連泊キャンペーンを実施した。
みやぎ観光誘客加速化事業 (観光課)	10,417 (9,839)	本県への観光客の誘致を図るため、被災地における震災研修に県内観光を加えた「復興ツーリズム」の確立に向けた旅行商品造成や地域の観光資源の磨き上げを行う。	・沿岸部における観光支援のため、旅行会社の担当者を招請した復興ツーリズム招請事業を実施した。また、風評による影響の大きい仙南地域を対象とした宝探し事業を実施した。

事業名 (担当課)	当初予算額 (決算見込額)	実施状況	
		事業概要	平成24年度実施状況
仙台空港利用促進事業 (空港臨空地域課)	44,777 (44,424)	<p>仙台空港の路線充実・拡大のためエアポートセールスを実施するほか、航空機を使った旅行需要を喚起するための利用促進事業を実施する。</p> <p>また、仙台空港の更なる活性化を図るため、国の空港経営改革の推進に合わせた空港と三セクの経営一体化及び民間運営委託を実現する。</p>	<p>・知事及び副知事によるトップセールス4件を含めたエアポートセールスを82件(～2月末)実施した結果、平成25年度から国内線2社、国際線1社の新規就航が決定した。</p> <p>また、経営一体化及び民間運営委託の実現に向けた検討、関係機関との調整を進めるとともに必要な情報データを整理した。</p> <p>また、東アジアに向けて、旅行需要喚起につながる情報をSNSやTVを活用して発信した。</p>

5 基本計画の実施状況の検証

・平成23年3月11日に発生した東日本大震災による壊滅的な被害と福島第一原子力発電所発事故の影響を受けて、平成23年の観光客入込数は前年比約3割減の4,316万人まで落ち込んだ。震災以降、県では本県の観光に元気を取り戻すため、被災した宿泊施設等の集客施設の復旧支援を行うとともに、観光キャンペーンを実施するなど、国内外からの観光客の誘致に努めてきた。

・震災復興2年目となった平成24年度の施策展開は、観光施設の復旧支援の継続や正確な観光情報の発信、平成25年春に開催するDCのプレキャンペーンの官民一体となった推進のほか、新たな観光ルートの構築、インバウンド(外国人旅行客の誘致)への対応強化、震災の経験を生かした観光復興の取組等を進め、多様な魅力を有するみやぎの観光の再生に取り組んだ。

・平成24年度は、被害が比較的少なかった内陸部等に加え、本格的な復興は未だ緒に就いたばかりであるものの、甚大な被害を受けた沿岸部においても、被災地支援の機運の高まりを背景とした復興支援のボランティアツアーや震災の経験を伝える語り部ガイドによる観光客の受け入れが行われるなど、観光復興への取組が広く全県で行われた。

・その結果、平成24年の「観光入込客数」は5,144万人で、前年比約2割、828万人の増加となった。しかし、震災前の平成22年(6,127万人)と比べると84%の水準であり、回復傾向にはあるものの、回復のスピードは鈍く、原発事故の風評被害や宿泊施設等の復旧の遅れなど、本県の観光を取り巻く環境は依然として深刻である。

・しかしながら、本県を訪れた観光客を対象に行った調査では、「旅行に対する東日本大震災の影響がなかった」という回答が約87%に上り、また、平成24年度の仙台空港の利用客数が約270万人と平成22年度の実績を上回るなど、観光施設等の再生・復旧や正確な観光情報の発信に取り組んできた成果は徐々に現れてきていると考えられる。

・以上のことから、平成24年度は、東日本大震災の影響で落ち込んだ観光客を震災前の水準に回復させるための施策を的確に展開してきたものと判断する。